



子どもを産み育てやすい社会の構築と 新制度に沿った子ども支援の充実を



社民・民主・護憲クラブ
平山 光子 議員

12月12日 一問一答方式により質問

- 1 市長の政治姿勢について
 - (1) 国政の状況と予算編成
 - (2) 道の駅おおむたの役割と花ぶらす館の振興
- 2 子ども・子育ての支援について
 - (1) 大牟田市子ども・子育て支援事業計画
 - (2) 子どもの貧困と支援の充実
 - (3) 就学援助制度の対象拡大
- 3 教育行政について
 - (1) 新教育委員会制度
 - (2) 中学校再編に係る諸課題
 - (3) 公立小中学校の給食実施
- 4 人権が尊重されるまちづくりについて
 - (1) 男女共同参画社会の形成と多様な個性の尊重

子ども・子育ての支援について

大牟田市子ども・子育て 支援事業計画

問 子ども・子育て支援事業計画の制度がわかりにくいとの声が多数聞かれる。入園・入所の申し込み手続等で混乱はなかったのか。

答 児童家庭課と教育委員会学務課で連携し、わかりやすく丁寧な対応に努め、入所手続も順調に進んでいる。今後も混乱がないよう効果的、効率的な情報提供に努めていく。

問 本市の保育料負担については、高いと思われる。最大限の軽減措置を図るべきではないか。

答 子育て家庭に対する経済的負担の軽減は重要であると認識している。軽減措置等、引き続き検討していく。

問 地域型保育事業は、多様なニーズに応えるよう充実していくべきではないか。

答 策定中の子ども・子育て支援事業計画において充足を図りたい。

子どもの貧困と 支援の充実

問 本市の現状、法律を受けての体制整備や取り組みの状況は。

答 市町村ごとの貧困率は示されていない。関係部局が連携しながら

支援していく。

問 子供の成長を一元的に担当する窓口整備が必要ではないか。

答 必要性は理解している。全庁的な組織体制と関わっており、今後の検討課題としていきたい。

問 文部科学省が就学援助の補助対象品目としているクラブ活動費、生徒会費、PTA会費も対象とすべきではないか。

答 他都市の状況や財源等、総合的に検討すべき課題と考える。

教育行政について

中学校再編に係る諸課題

問 中学校再編による宅峰中学校の開校に向け、どのような課題があり、どう対応していくのか。

答 人的な教育環境の充実と再編に伴う通学路の安全確保及び自転車通学についてなどの条件整備に努めていく。

公立小中学校の給食実施

問 小学校の自校調理方式について、教育長の見解は。

答 調理の効率性や財政面で課題もあるが、身近な所での給食づくりのよさがあり、小学校期の自校調理方式は一定の意義がある。

問 来年度の中学校再編と給食開始が重なり不安の声もある。年度初めの開始にこだわらず、万全の準備を整え開始すべきではないか。

答 校長会や学校等とも十分協議、連携を行い、円滑に給食が実施できるよう準備を進めていく。

問 給食費は、市が徴収する公会計へ移行すべきではないか。

答 県内4市が移行。他都市の状況を調査し、メリットやデメリットを検証しながら検討を進める。

市長の政治姿勢について

道の駅おおむたの役割と 花ぶらす館の振興



問 新たな指定管理者による道の駅花ぶらす館の今後の運営に当たっては、経営の改善はもちろんだが、地域住民の思いを大切にしてい

答 地域住民の思いを踏まえ設置されており、本市にとって今後も重要な施設。このことをしっかり伝えて、今後も、地元の意向が反映される施設運営に努めていく。